

暗唱聖句: 真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。(エフェソ 4:24)

7月に入ってから、私たちはエフェソの信徒への手紙を毎週1章ずつ読んでまいりました。今週は4章です。1から3章までは、神の愛、恵みと救いの希望について書かれており、4章以降は、その愛、恵み、救いの希望に基づいて、キリスト者としてどう生きるべきかということについて、書かれています。

キリスト者としてどう生きるべきか…

異邦人と同じように歩んではいけないと、書かれています。エフェソの教会はそのほとんどがユダヤ人ではなく異邦人でした。異邦人である彼らに、「異邦人と同じように歩んではいけない」とは、どういことでしょうか? 異邦人とは主イエス・キリストを信じるようになる前の自分です。主イエス・キリストを信じて、神の民となったのですから、神の民となる前、異邦人であった頃の昔の自分のままで考え、行動してはいけないということです。

神さまを知らず、自分中心に生きていた時、——その時は気づいていなかったかもしれませんが——自分の努力で何かを得たり、楽しい時を過ごしたりしても、どこか心が空虚で、満たされない思いをしていたのではないのでしょうか? 人間の知恵や知識のみに頼って世の中を見つめていたため、本当に大切なものが見えず、神さまのみ言葉を聴く耳、神さまの愛を受け入れる柔らかな心を持たずにいたのではないのでしょうか?

しかし、私たちは、神さまに出会い、キリストを知り、キリスト者として生きることを決意し、内側から、心の底から変えられたのです。知識として学んで、頭で理解したものではありません。聖霊の働きにより、キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだのですから、キリストの愛に応えたいと、自ずと行動が変えられていくはずなのです。

「真理に基づいた正しく清い生活」と聞くと、堅苦しく、窮屈なイメージがあるかもしれませんが、ルールや罰則に縛られて、イヤイヤ従うのではなく、キリストを自分の中心に置いて、喜んでキリストに従う時、自然とそのような生活になるのではないのでしょうか?

しかし、私たちは弱いものです。心がキリストから離れ、欲望に負けてしまうこともあります。特に、クリスチャンの数の少ない日本では、職場や学校など、「真理に基づいた正しく清い生活」を行うことが難しい環境も多いでしょう。それでも神さまは大きな愛で包んでくださり、悔い改めへと導いてくださいます。自分がキリストと出会い、キリスト者として生きていく決意をして、バプテスマを受けた時のことを思い出し、初心に帰るのです。自分の行いを省み、何度でも新しく生まれ変わって歩んでまいりましょう。

生まれ変わるためには、まず、「滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て」なければなりません。変化することは、時に勇気を必要とします。今までの状態をキープしながら、新しいことを始め、それが大丈夫とわかったら、徐々に古いものを手放していくというようなことが、日常生活の中ではあるのではないのでしょうか。キリスト者としての生活においても、初めは、古い人を完全に脱ぎ捨てられず、こっそり隠している人もいるかもしれません。しかし、古い自分はそのままで、その上から新しいものを身につけても、何かの拍子にすぐボロが出てしまいます。キリストに出会う前の自分は完全に捨て去って、全く新しい自分にならなければなりません。

そして、ただ、新しい人になるわけではありません。「神にかたどって造られた」新しい人を身につけるのです。キリストに倣って、キリストのように生きるのです。「イエスさまならどうなさるか」「イエスさまは何をしたら喜ばれるか」を常に考え、イエスさまのお働きのために自分を用いていただくのです。

「真理に基づいた正しく清い生活」をすることの喜び、そのことによって得られる心の平安を多くの方々に伝えてまいりましょう。

●分かち合い

- ・クリスチャンになって自分が変わったと思うところは、どのようなところですか？
- ・真理に基づいた正しく清い生活を送るために心がけていることがありますか？



ショートメッセージは、教会ホームページから動画でも視聴できます。

右のQRコードを読み込むか、スマホ・PCからご覧の方は[こちら](#)をクリックしてください。

公開：7月21日（木）～